

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	音環境規準検討小委員会	主 査 名：古賀 貴士 就任年月：2012 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：佐久間哲哉
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>今後順次制定していく音環境規準について、作成・改訂する音環境規準の検討・決定／作成・改訂スケジュールと体制の検討・決定／遮音性能規準の考え方等全体に影響を及ぼす事項の検討／WG による音環境規準 WD の作成・改訂／企画刊行運営委員会移行後のフォロー／作成に関する全体マネージメント</p> <p>・本年度は、以下の項目を活動項目とする：音環境規準全体のグランドデザインの検討／「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」についてのフォロー／新規 AIJES の取り組みに関する議論</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し	
	古賀貴士 (鹿島建設)、池上雅之 (大林組)、平光厚雄 (国総研) 井上勝夫 (日本大学)、岡野利行 (竹中工務店)、佐久間哲哉 (東京大学)、清水 寧 (東工大)、田端 淳 (大成建設)、佐藤 洋 (産総研)、羽入敏樹 (日本大学)、濱田幸雄 (日本大学)、平松友孝 (音・環境研究所)、福地智子 (永田音響)、宮島 徹 (清水建設)、吉村純一 (小林理研)	
設置 WG (WG 名：目的)	学校施設の音環境保全規準・設計指針改定準備 WG： (目的) AIJES 『学校施設の音環境保全規準・設計指針』の改定準備作業をすすめる。	
2016 年度予算	20,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1 .
講習会	1 .
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1 .
大会研究集会	1 .
対外的意見表明・パブリックコメント等	1 .
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 昨年度刊行した「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」の AIJES 化にむけて解決すべき課題を整理し、各技術分野を掌握する小委員会に検討を依頼した。</p> <p>2. 学校施設の音環境保全規準・設計指針改定準備 WG を立ち上げ、改定準備に着手した。</p>
委員会活動の問題点・課題	委員会発足時の目標に従い活動を実施しているので、特に問題はない。

## 2016 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>① 昨年度刊行した「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」の AIJES 化にむけて解決すべき課題を整理し、各技術分野を掌握する小委員会に検討を依頼した。</p> <p>② AIJES「学校施設の音環境保全規準・設計指針」の改定に向け、検討すべき事項等についてアンケートを実施するとともに、改定 WG を立ち上げ、改定作業に着手した。</p> <p>③ 遮音性能規準や指針のグランドデザインの在り方について議論した。学校、集合住宅以降の遮音性能規準や指針の続編としては、建物用途別に分冊化し続けることは必ずしも望ましいことではないことから、複合施設(複合建物)に対応できる形のまとめ方を検討している。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
  - 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
    - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
    - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
    - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
    - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
  - 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。
- \*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。